

令和8年度第1回「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」干潟観察会の概要

- 日 時 令和8年5月17日(日) 13:00~16:00
- 場 所 阪南2区人工干潟(岸和田市)
- 主 催 きしわだ自然資料館、共和海建グループ、CIFER・コア
- 協 力 大阪港湾局、(公財)大阪府都市整備推進センター、堺泉北埠頭(株)、阪南2区連絡協議会、全国豊かな海づくり大会推進グループ
- 参加者数 158名(岸和田市:62名(大人26名,子ども14名,市職員19名,テレビ岸和田3名)、共和海建グループ39名、CIFER・コア:27名(大人23名,子ども4名、阪南2区連絡協議会:22名、大阪府港湾協会:8名)
- 行 程 13:00 岸和田地藏浜マルシェ前集合、挨拶
13:10 出航
13:30 注意事項,生物の採集方法の説明
13:50 干潟で生き物採集、護岸清掃(共和海建グループ)
15:30 帰港
15:45 見つけた生き物の観察・同定・学芸員による解説
17:00 解散

○活動内容

今年度第1回目となる干潟観察イベント「阪南2区人工干潟から始めるSDGs活動」を開催しました。当日は天候に恵まれ、暑さはありましたが風も心地よく、絶好の観察会日和となりました。岸和田市長や大阪府都市整備推進センターの新理事長も参加され、活気あふれる観察会となりました。

この日は、干潟のほぼ全域が姿を現すほど潮位が低く、仮護岸に沿ってワカメが生育している様子や、その沖合に帯状に連なるシダモク系の海藻の群生を観察することも

できました。季節的にワカメは枯れ始めていたものの、海藻類が広範囲に生育している様子から、動物だけでなく、この周辺海域において自然環境の再生が着実に進んでいることを感じられる機会となりました。

採取された生物の同定作業は、漁港のセリ場を借りて行われました。会場には海域で獲れたタコやアカエイなどを入れたタッチプールや、CIFER・コア矢持副理事長により夜光虫などのプランクトンを顕微鏡で観察できるコーナーなどが設置され、子供たちは熱心に眺めていました。

また、地元テレビ局による取材・撮影も行われ、放映を通じて活動への認知がさらに広がり、市民参加の拡大につながることを期待されます。今後も観察会をはじめとする活動を通じ、市民・府民に自然環境の大切さや再生の成果を広く発信しながら、継続的な取り組みを進めていきたいと考えています。





今回は旅客船「INFINITY」が使用された 護岸沿いに海藻が繁茂している様子 観察会の前に、危険生物などを説明



マテガイの採取 写真左の赤い服の人物は岸和田市長
◀コメツキガニ



同定作業の様子
写真上はこどもに人気のタッチ
プール。大きなアカエイは迫力



顕微鏡でプランクトンが見られるコーナーを設置



学芸員の机周りは解説を聞きに大人の方が集まる